

〔国際会議発表〕

発表研究者	九州大学大学院 システム情報科学府 博士課程 (後期) 田村 俊介	2172107
参加会議	174th Meeting of the Acoustical Society of America	
出張期間	2017 年 12 月 3 日～12 月 10 日	
開催場所	ニューオリンズ・USA	
発表論文	Study on the interactions between voicing production and perception using auditory feedback paradigm	

概 要 :

アメリカのニューオリンズで開催された 174 th Meeting of the Acoustical Society of America に参加した。主催機関のアメリカ音響学会は、助成金受領者の専門分野である音声知覚研究のみならず音を対象とした研究を幅広く扱っており、音響の研究分野では世界最大規模の学会である。今回の会議は参加者数 1036 名と例年の半数程度であったが、助成金受領者が主に活動拠点を置く日本音響学会に比べると音声知覚研究のセッション数が多く、専門分野の近い海外の研究者が数多く会議に出席していたため非常に有意義かつ活発な議論を行うことが出来た。

発表では、閉鎖子音における有声音/d/と無声音/t/を題材に扱い、それらの生成に変化を生じさせると知覚にも変化が生じるかを調べることで音声の生成と知覚の相互作用を探る研究について報告した。具体的には、まず、実験参加者が実際に発声した音声とは異なる音声刺激を両耳にフィードバックする実験を行うことで無声音/t/の発声を変化させた。さらに、その前後で有声音/d/と無声音/t/の知覚課題を行い、成績に変化が見られるかを検討した。その結果、無声音/t/の発声の変化に伴い、その知覚にも変化が生じることを示唆する結果が得られたが、発声の変化と知覚の変化の間で相関があるかどうかを調べた方がいい、あるいは、アメリカ人と日本人では有声音と無声音の生成や知覚に違いが生じることが知られているがアメリカ人を対象とした場合にも同じような結果が得られるか、など数多くの質問やアドバイスをいただいた。